



令和4年度「ちっちゃい探検隊③」実施報告書

I 事業の概要

1. 期 日 令和5年3月4日(土) ※日帰り
2. ねらい
 - ・親元を離れ、大自然の中で仲間と生活することを通して、自分で行動する自信をつける。
 - ・班の中で自分の意見を言えたり、友だちの意見を聞いたりすることができる。
 - ・友だちと力を合わせることを楽しいと感じることができる。
3. 参加対象 小学校1～3年生
4. 応募者 29名
5. 参加者 28名 (大学生ボランティア 9名)
6. 参加費 1,000円
7. 日 程



9:00	受付開始
9:30	出会いの集い
10:00	交流レクリエーション
10:45	クラフト「仲間のあかし!探検隊証明書を作成せよ!」
11:15	協力型ゲーム「友だちと協力して宝の地図を手に入れよう!」
12:00	昼食
13:00	野外オリエンテーリング「冒険に出かけよう!」
14:30	暗号読解「宝物のありかを解き明かせ!」
15:00	おやつタイム・感想記入
16:00	別れのつどい・解散

II 実施状況

今年度最後のちっちゃい探検隊③は、今回も日帰りでの実施となった。緊張した面持ちの子どもたちを学生ボランティアが優しく迎え、28名の子どもたちが集合した。

出会いのつどい後、めんだきちゃんから船上山に伝わる宝物の話を聞いた。まずは自己紹介を兼ねた仲間作りゲームを行い、班の友だちとの距離を縮めることができた。

次に、色鉛筆を使って、探検隊証明書(のちの缶バッジ)を作成した。発達段階に応じて、様々なイラストを用意することで、塗り絵が得意でない子



どもも活動することができた。

体育館に場所を移し、友だちと協力してパイプラインを行った。力を合わせ、多くのピン球をバケツに入れることで、午後からの活動である「冒険に出かけよう」の地図をどの班も手に入れることができた。

午後からはよいよ宝の地図を使って、野外オリエンテーリングを行った。全5か所のミッションをクリアしながら、宝のありかを示す暗号のかけらを手に入れていった。どの班もメンバーと力を合わせ取り組み、1回で成功しなくとも、2回、3回と挑戦する班も見られた。

最後に5つの全ての暗号のかけらを合わせると「広場の白い倉庫の中」という言葉が完成した。倉庫の中から宝箱を発見すると、子ども達からは歓声が上がった。宝箱の中には、ケーキのオブジェと午前中に作った探検隊証明書が缶バッジになって出てきた。がんばった子ども達は、おやつにケーキをおいしくいただくことができた。

別れのつどいでは各班の代表からは、「みんなと協力して活動できた」「クリアできないミッションがあって悔しかった」「また来年も来たい」などの感想が聞かれた。参加者は記念の缶バッジを手手に、迎えに来られた保護者の方と一緒に笑顔で帰っていった。



Ⅲ 総括

1. 参加者の感想(抜粋)

- ・ 虫をさがすミッションが一番難しかったけど、一番楽しかったです。
- ・ ごはんもおいしかったし、サンダーアタックを1回でクリアできてよかったです。
- ・ お兄さんやお姉さんに宝探しを手伝ってもらいました。ヒントカードを集めて、最後に宝箱の中に缶バッジが入っていて、嬉しかったです。また参加したいです。



2. 成果

- ・ 今回は2年前の企画の内容をリメイクした活動となった。学生との打ち合わせも十分な時間が取れない中で、子どもたちがストーリーを楽しむことができ、とてもよかった。
- ・ 日帰りという短い時間ではあったが、子ども達からは「楽しかった」、「ゲームがクリアできなくて悔しかった。また来たい。」という感想を聞くことができた。



2. 課題

- ・ 参加者の中にはリピーターも多い中で、多種多様なストーリー性や世界観を生み出す企画を考えるのは大変だが、改めて子ども達のモチベーションにつながることを感じた。
- ・ 様々な特性をもつ子どもが今後も参加することが予想されるので、可能な限り余裕のある人員配置を考えたい。

